

# 水泳選手における達成意欲に関する一考察

小笹 江梨 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 植田 実

キーワード：目標 達成 やる気

## 1. 緒言

達成意欲とは、達成＝成し遂げること、意欲＝進んでなにかをすること（大辞林）すなわち、やる気のことである。これが高い人は何かをやり遂げようとする気持ちが強い。『日本の教育がゆとり教育（1992年施行）に切り替えたことにより、子どもたちが勝つことの喜びや、負けることの悔しさを学ばずに育ってきている。そして怒りだけが増大してきている。』（和田 2003）このことから目標達成後の喜びが長く続かない子供たちの現状が挙げられている。

そこで本研究では、目標達成意欲が低下してきているのであれば目標達成後の喜びも薄れてきているのではないかと考え、ゆとり教育に切り替わる前と後で達成意欲の違いを比較し明確にすることを目的とする。

## 2. 研究方法

方法：アンケート調査

文献調査

対象：コーチ20～30代：20名

コーチ40代以上：20名

計40名にアンケート調査を行う。

ゆとり教育の経緯、目標達成意欲の変化、競技スポーツの価値などを探った。

## 3. 結果と考察

アンケート調査より、みんな一緒という風潮から競争力の低下に繋がっているなどの回答があり、ゆとり教育がスポーツに影

響を及ぼしていることがわかった。その影響として、競争力の低下、生活習慣の変化などがあった。「目標達成意欲があるか」の設問では、ゆとり教育施行前の世代は5段階評価の4以上であるのに対し、施行後の世代は3が多かった。このことから、目標達成意欲が低下していることが読み取れる。しかし、すべてがゆとり教育のせいではなく、選手個人のモチベーションや、指導者とのコミュニケーション不足が浮き彫りとなった。指導者の態度や言動が、選手個人の目標達成意欲に関係していることが分かった。

## 4. まとめ

なお、本研究では、アンケート調査の対象者が20代以上であるため、ゆとり教育施行後の対象者が少なく、ゆとり教育世代の回答はあまり得られていない。今後はゆとり教育世代の視点も踏まえ、ゆとり教育と目標達成意欲の関係性を検証したい。

## 参考文献

- ・西村和雄（2011）ゆとりを奪った「ゆとり教育」P84-104
- ・笹川スポーツ財団（2011）スポーツ白書—スポーツが目指すべき未来—P125-132
- ・和田秀樹（2003）『学力崩壊：ゆとり教育が子どもをダメにする』PHP文庫P75-98